



GLOBALG.A.P.

GLOBALG.A.P.

一般規則

作物規則

日本語版 5.2（不明点がある場合は英語版を参照してください）

発効日：2019 年 2 月 1 日

義務化への移行日：2019 年 8 月 1 日

目次

1 はじめに	3
2 認証スコープ	3
2.1 総合農場保証（IFA）基準/生産安全基準（PSS）	3
2.2 農作物のサブスコープ	3
2.3 統一生産安全基準	4
2.4 収穫の除外	4
2.5 収穫後の生産物の取り扱いの除外	5
3 並行生産/所有	5
4 評価プロセス	6
4.1 検査時期	6
4.2 生産物取り扱い単位の検査 （オプション 2 およびオプション 1 の QMS を伴うマルチサイト）	8
4.3 検査時間	8
改訂履歴	10

1 はじめに

この文書は、GLOBALG.A.P.総合農場保証（IFA）基準および、GLOBALG.A.P.生産安全基準（PSS）および統一生産安全基準（HPSS）に従って、農作物の認証を取得しようとしているあらゆる関係者のための追加の認証規則について記載しています。

これらの農作物規則は、すべての GLOBALG.A.P.の基準に適用される認証規則を定める GLOBALG.A.P.一般規則と組み合わせて使用されるものとします。

英語バージョンでは、「shall（～するものとする、～しなければならない）」という単語は、GLOBALG.A.P.の要求事項が義務であることを示すために、この文書の全体で使用されています。

2 認証スコープ

2.1 総合農場保証（IFA）基準/生産安全基準（PSS）

2.2 農作物のサブスコープ

農作物規則は、農作物のスコープ（CB）の下にあるすべてのサブスコープに適用されます。

- (i) 青果物：GLOBALG.A.P.認証は、人間による生食、調理、または加工に利用される果物および野菜を対象としています。薬用または香料目的のためだけに栽培された農作物（野菜または薬草）は認証することができません。
- (ii) 花卉および観賞用植物
- (iii) 栽培用種苗（このサブスコープの下で認証済みの生産物は、そのまま人間が消費または飼料とすることを想定していません）
- (iv) コンバイン作物：GLOBALG.A.P.認証は、調理・加工されて人または動物が消費する、あるいは食品産業で使用される広範囲の農作物を対象としています。
- (v) 茶
- (vi) ホップ

薬草に関する注記：一般に薬草に分類される生産物は、「GLOBALG.A.P.の生産物リスト」に記載され、個々の生産物に固有の識別番号が付けられています。

2 種類以上の薬草を栽培している場合は、必ずしも個々の生産物（薬草）について残留検査を行わなければならないわけではありませんが、一群の薬草のリスク次第です。

2.2.1 農作物 IFA/PSS 基準のモジュール構造

IFA 農作物基準は、スコープおよびサブスコープのモジュールから構成されています。基準への適合の評価は、適用可能なモジュール全ての確認を意味します。適用スコープへの適合を確認することなく、それぞれのサブスコープを認証することはできません。どのスコープが適用されるかは、検査されるサブスコープによって決まるものとします。

例:

- (i) リンゴは青果物サブスコープ (FV) の下で認証されるものとします。また、それは自動的に全農場基本スコープ (AF) および農作物基本スコープ (CB) への適合を要求しています。
- (ii) 栽培用種苗の認証は、全農場基本 (AF)、農作物基本 (CB)、および栽培用種苗サブスコープ (PPM) への適合を要求しています。
- (iii) 醸造用のホップの実は、全農場基本 (AF)、農作物基本 (CB)、およびホップサブスコープ (HO) への適合を確認後に認証されます。

ただし、醸造用のホップの実と併せてホップの新芽 (野菜) を認証の範囲に含める場合、生産者は全農場基本 (AF)、農作物基本 (CB)、ホップ (HO)、および青果物 (FV) のサブスコープに適合することとします。

ホップの新芽のみについて (醸造用でなく野菜として) 認証を申請する生産者は、全農場基本 (AF)、農作物基本 (CB)、および青果物 (FV) サブスコープに適合することとします。

構造およびモジュラー方式による取り組みの詳細については、「GLOBALG.A.P.一般規則パート I - 一般要求事項」を参照のこと。

2.3 統一生産安全基準

一般規則についての HPSS の補遺に加えて、これらの農作物基本は、「GLOBALG.A.P.の生産物リスト」に青果物として記載されるすべての生産物の生産に適用されます。

2.4 収穫の除外

- (i) 生産物が収穫前に販売されており、また購買者の責任の下で収穫される場合、セクションFV 5の収穫に関するIFAの管理点およびHPSSのセクション3の管理点および適合基準は、生産者の認証から除外することができます。
- (ii) 生産物の所有権が生産者にある間に収穫プロセスが行われる (生産者自身または外部委託によって行われる) 限り、収穫に関連するすべての管理点は検査および認証に含まれるものとします。
- (iii) 「収穫の除外」は、収穫前の時点ですでに生産物が生産者に属さず、生産者が収穫プロセスを管理しない場合に適用されます。生産者が収穫プロセスを外部委託する場合は適用されません。
- (iv) 生産者は、登録中に、詳細な根拠資料を添えて生産物ごとの除外申請をするものとします。
- (v) 認証機関 (CB) は、以下の要求事項に基づいて、収穫が除外されても差し支えないかどうかについて決定を下します。生産者は、収穫者または購買者が以下のすべてを行うことを述べた購買者との契約を結ぶものとします。
 - a) 収穫前に生産物の所有権を得ること
 - b) 収穫前期間 (PHI) が確認された後にのみ、収穫が行われるよう責任を負うこと
 - c) 収穫後の生産物を取り扱うこと (収穫時だけではなく)
 - d) すべての生産物を購入すること (生産者が農作物の一部を収穫し、残りの部分を収穫前に販売する場合、収穫除外はできません)

(vi) 生産者がGLOBALG.A.P.への登録時に購買者を知らない場合、以下のものが提供されることとします。

- a) 生産者から購買者（収穫者および収穫後の取り扱い者である新しい所有者）へ収穫前期間（PHI）を通知する書面
- b) 購買者が特定された時点での購買者との契約。（v）のすべての項目を含む。収穫が生産者または生産者グループから除外される場合、生産物の取り扱いも生産者または生産者グループから除外されるものとします。

2.5 収穫後の生産物の取り扱いの除外

- a) 生産物の取扱いは、生産物の収穫後の取り扱いのあらゆるプロセスを含んでいます。例えば、保管、化学処理、トリミング、洗浄、あるいは生産物に他の材料または物質による物理的接触の可能性があるその他の取り扱いなど。チェックリストの注記には、生産者に適用される特定のプロセス（生産物ごと）の詳細を含んでいなければなりません。
- b) 生産物の取り扱いが申請者の所有権の下で行われていない場合、登録手続き中に認証機関へ申告され、認証書に示されるものとします。
- c) 収穫が除外されている場合、生産物の取扱いは含まれないものとします（上記の2.3「収穫の除外」を参照）。
- d) （生産者または外部委託業者による）生産物の取り扱いにおいて、生産物が生産者のものである限り、生産物の取扱いは常に認証に含まれるものとします。生産者が、梱包/取り扱い/保管場所を管理しておらず、生産物は生産者に返却されることがなく、また生産者は所有権移転後の生産物について責任を負わないという証拠書類（契約書、同意書など）がない限り、生産物の取り扱いを除外することはできません。
- e) 農場出荷後の生産物取り扱い単位（PHU）が、GFSI（www.mygfsi.com）が承認したスコープDにおいて食品安全認証を既に持っている場合でも、GLOBALG.A.P.の検査員は、該当する場合、収穫後の処理（IFA FV 5.8.1-10, HPSS 5）と同様に、識別管理およびトレーサビリティ（例：IFA AF 11, AF 13, CB 1.1, HPSS 10, 12）を検査するものとします。ただし、GLOBALG.A.P.と農場出荷後のプロセスを対象としたGFSI承認規格の所有者との間で、これらの項目がそのGFSI承認規格の中に含まれることが述べられている二者間合意があれば、検査を省略することができます。

生産者が、自農場で生産物の取り扱いを行わず、GLOBALG.A.P.認証（生産物の取り扱いを含む）を取得している他の生産者の設備で行う場合、認証機関は別の認証機関の認証書を受け入れるか、あるいは認証機関はPHUの独自の検査を行なうかを定めることができます。

3 並行生産/所有

農作物認証では、認証済みの生産物と非認証の生産物の間に、一般消費者が見て分かる違いがない限り、1つの生産サイトでの並行生産は認められていません。（例えば、チェリートマトとローマトマト）

IFA サブスコープの花弁および観賞用植物については、一般的な分類のみを記載している生産物リストにおいても、並行生産および並行所有の定義は、以下のとおりです。

並行生産 (PP) :

PP とは、個別生産者、生産者メンバー、または生産者グループが、同じ品目について一部を認証品として、また一部を非認証品として生産する状況のことです。また認証に登録される品目を生産する生産者グループのすべてのメンバーが、認証書の範囲に含まれているとは限らない場合、それも PP です。

例：生産者がバラを栽培しています。バラ生産の一部だけが認証されます。生産者が認証品としてある品目を生産し、また非認証品として別の品目を生産する状況（例えば、認証済みのバラおよび非認証のカーネーション）は、並行生産ではありません。

並行所有 (PO) :

PO は、個別生産者、生産者メンバー、または生産者グループが、認証済みの生産プロセスの下で栽培する品目と同じ品目の、認証されていない生産物を購入する状況です。

例：生産者は認証済みのバラを栽培しており、他の生産者から非認証のバラを購入しています。

4 評価プロセス

4.1 検査時期

以下の規則は、GLOBALG.A.P.一般規則に記載されている検査時期のルールと共に適用されます。

4.1.1 初回（最初の）検査

- (i) 初回検査は、認証に含める各生産物の収穫作業を目視確認します。同様に、生産物の取り扱いが含まれている場合、それも目視確認します。その他の野外作業は、実行可能な別の機会にチェックすることができますが、これは義務ではありません。
- (ii) 検査員ができるだけ多くの管理点を検証するために、検査はできるだけ収穫現場に近い場所で行うものとします。
- (iii) 検査が収穫前に行われる場合、特定の管理点を検査することができません。その結果、フォローアップの訪問が必要となるか、または適合の証拠がファックス、写真、または、その他の受理可能な方法によって送られなければなりません。すべての管理点が検証され、不適合がすべて是正されるまで、認証書は発行されません。
- (iv) 収穫が検査の前に行なわれる場合、生産者は、収穫と関連する管理点の適合を立証する証拠を保持するものとします。そうでない場合、いくつかの管理点をチェックすることができず、認証が次の収穫まで取得できないことが予想されます。
- (v) 認証機関は、抜き打ち訪問のためのサンプル抽出において、初回検査または更新検査を収穫期間中に受けなかった生産者が、次の収穫中に抜き打ち検査を受ける確率が高まるようにしなければなりません（検査時期について話し合う場合、生産者にこのことを伝える必要があります）。さらに、認証機関は、収穫中に更新検査を実施するために尽力するものとします。
- (vi) **複数の農作物：**生産者が 2 つ以上の農作物の認証を取得しようとする場合、その農作物の収穫時期は必ずしもすべて同じ季節ではない可能性があります。つまり、1 つの農作物の収穫時期は、他の農作物の収穫時期と必ずしも一致しません。上記の要求事項は、生産および収穫のプロセスならびにそれらのリスクにおける類似性に基づいて分類した農作物のグループに適用可能です。認証機関は、生産物を認証書に追加する前に、これらのグループごとにすべての管理点を確認するものとします。

例:西洋ナシを既に含んでいる認証範囲にリンゴが追加される場合、リンゴ収穫中の訪問は必要ではありません。ただし、リンゴは、適用可能なすべての管理点が確認された後のみ、認証書に追加することができます。なお、ほうれん草を認証範囲に追加する場合、ほうれん草の収穫期間中に検査が必要です。

4.1.2 更新検査

- (i) 検査は、関連する農業活動または取り扱い（ただし、保管のみではない）が行われている時に、1回で実施されるものとします。検査時期は、すべての登録済みの農作物が検査時に存在しなくても、認証要件に適合して取り扱われるという保証を認証機関が得ることができる時期とします。閑散期の検査、あるいは農業活動がほとんどない時期の検査は避けるものとします。
- (ii) 生産物の取り扱いが認証範囲に含まれている場合、生産物の取り扱い設備は毎年検査されるものとします。この検査は作業中に実施されるものとします。生産物取り扱い作業におけるリスクが低いことを明確に示すリスク評価を認証機関が実施した場合に限り、2年に1回、生産物の取り扱い作業中に検査をすればよいこととします。リスク評価では、過去にそれぞれの生産物と関連する食品安全上の事故がある場合、および GLOBALG.A.P.から特定の管理点を見るよう指示があった場合、梱包された生産物も考慮に入れなければなりません。認証機関は、検査時期を決めた正当な理由を記録に付けるものとします。この例外は、QMSを伴わないオプション1の生産者にのみ適用できます。
- (iii) 生産物の取り扱いが認証範囲から除外される場合、少なくとも2年に1回、収穫期間中の検査が予定されなければなりません。それぞれの年において、1つの生産物グループごとに少なくとも1つの登録品目の収穫期間中に検査をしなければなりません。農作物のグループは、生産および収穫プロセスにおける類似性、およびそれらのリスクに基づいています。認証機関は、検査時期の選定と農作物のグループ分けの正当な理由を記録しておかなければなりません。

農作物は以下のように分類することができます：

- a) 機械により収穫されるもの（他の収穫方法によらないもの）。この場合、収穫作業を観察する必要はありません。機械および収穫前後の機械操作の記録のみの確認で十分とします。
- b) 手作業により収穫される低リスクの生産物。低リスクの生産物とは、以下のいずれかをいいます。
 - i. 常に加熱してから食べるもの
 - ii. 常に洗浄してから食べるもの、すなわち洗浄しなければ食べられないもの
 - iii. 乾燥したナッツ類
 - iv. 食べられない皮や殻のある生産物
 - v. （未処理の状態での）収穫後、病原体軽減のための処理をする生産物
 - vi. 過去に食品安全に関する事故が生じていない生産物
- c) 手作業により収穫される高リスクの生産物。「2.認証スコープ」の規定に従っていない生産物はすべて高リスクとみなされます。
- d) 収穫に水または氷を使うもの
- e) 屋外で梱包されるもの

- (iv) 生産者が、次のサイクルの認証継続を約束しない場合、認証機関は、1つの認証書が毎年収穫される同じ農作物の2回以上の収穫および成長サイクルを対象に使用できる状況を回避するために、例えば、認証書の有効期間を短縮するなど、十分な準備をするものとします。認証機関は、農作物の収穫期間に応じて再確認をする最終期限を定めることができます。

例：ブルーベリーの収穫時期は10月いっぱいです。初回の検査が2015年10月に行われ、2015年11月末日から2016年11月末日を有効期限とする認証書が発行されたとします。この認証書は、2015年の収穫および販売、ならびに2016年の収穫も対象とする可能性があります。したがって、例えば2016年10月1日、といったように、認証機関は再検査（生産物の再受理）のために最終期限を設定するものとします。生産者がその日までに再検査しない場合、認証機関は認証書の有効期限を短くするものとします。

- (v) **複数の農作物が連続的に収穫される場合：**検査に際しては、サイト訪問、生産者および作業員へのインタビュー、文書および記録のレビューなどを通して認証範囲に含まれたすべての農作物の生産プロセスを評価されるものとします。生産者は、すべての登録済みの農作物に該当する管理点の適合の証拠を維持するものとします。

農作物の栽培時期が同じではない場合、収穫期間中に検査を実施する必要のない年には、認証機関は少なくとも1つの品目について農場で農業活動を見ることができる日付を選ぶものとします。

4.1.3 抜き打ち検査（オプション1のみ）

生産者の認証機関移行中に、受け入れ側の認証機関が認証範囲に含まれたすべての生産物の収穫時期を見ていない場合、見られなかった生産物の収穫プロセスを検査するために抜き打ち検査（10%ルール範囲内）が、12か月以内に予定されなければなりません。

4.2 生産物取り扱い単位の検査（オプション2およびオプション1のQMSを伴うマルチサイト）

青果物における認証機関の年次監査の場合、登録された中心的な生産物取り扱い単位（複数の生産者の生産物が取り扱われる場所）の総数の平方根は、作業中に検査されるものとします。中心的な生産物取り扱い単位が1か所しかない場合、そこは毎年検査されるものとします。（一般規則パート III 5.6.「生産物取り扱い単位の検査（オプション2およびオプション1のQMSを伴うマルチサイト）」を参照のこと）

4.3 検査時間

- 検査時間は、農場経営陣とオープニングミーティングを実施し、規格のすべての要求事項を完全に評価し、適用可能なチェックリストを完成させ、生産者へ結果を提示するのに十分な長さでなければなりません。
- GLOBALG.A.P. IFA農作物の通常のGLOBALG.A.P.生産サイト検査時間は、3時間から8時間です。（オプション1の生産者）
- 最短3時間は最も単純な状況（1つの場所、1つまたは数種類の農作物、単純な機械類、わずかな作業員、生産物の取り扱いなし、更新検査、文書が良く整っているなど）に適用されます。
- オプション2の生産者グループメンバーは、農場運営状況の複雑さ次第で、より短時間の検査もあり得ます。

e) 最短3時間の検査時間を延長させる要因は、以下のとおりです。（リストは全てを網羅しているわけではなく、オプション1に適用するものとオプション2のメンバーに適用するものとがあります）

- 初回検査
- 更新検査中に新しい農作物を追加
- 更新検査中に新しい場所を追加
- 保管が含まれる場合
- 生産の取り扱いが含まれる場合
- 異なる種類の生産物（生産物グループ）
- 異なる種類の収穫（収穫方法）
- 複数のサイトおよび場所
- より多くのサブスコープ（PSS および HPSS は適用除外）
- 外部委託業者の利用（第三者によってチェックされていない）

改訂履歴

新版	旧版	発行日	変更内容
190917_GG_GR_Crops_Rules_V5_2_ja	180427_GG_GR_Crops_Rules_V5_1_ja	2019 年 9 月 17 日	1 - HPSS を追加 2.1 - PSS を追加 2.1.1 - ナンバリングを変更 2.1.2 - PSS を追加、ナンバリングを変更 2.2 - HPSS のスコープを明確化 2.3 (i) - HPSS について明確化 2.4 e) - HPSS の追加 4.3 e) - 適用除外を追加

本文書の変更についてより詳細な情報が必要な方は、[変更箇所を表示した版の文書](#)をお読みいただくか、GLOBALG.A.P.事務局 (translation_support@globalgap.org) にメールでお問合せ下さい。

改訂の内容によって規格に新たな要求が導入されない場合、版名は「5.0 版」のままとし、更新履歴上には「5.0-x 版」と表示します。改訂内容が規格への準拠に影響する場合、版名を「5.x 版」に変更します。新版（例：6.0 版、7 版等）は常に規格の認定に影響します。

著作権

© Copyright: GLOBALG.A.P. c/o FoodPLUS GmbH: Spichernstr. 55, 50672 Cologne; Germany. 変更を加えない場合に限り複写と配布を認めます。